

# 2026年度 事業計画書

公益財団法人 日本補助犬協会

本年度も、「第14回もっと知って補助犬キャンペーン」を、協力団体、関係者、行政、マスコミ等と連携して実施し、「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて、“心のバリアフリー”の推進に取り組む。

さらに、「補助犬が活躍する社会」の実現に向け、人と犬との汎用性のある関係に関する調査・研究のスタートアップ事業として、世界の医療・福祉・教育機関等で展開されている犬介在事業を研究する「Project ACCESS」を、各国の育成団体と連携して開始する。その一環として、関西地方で実施している医療ファシリテードッグの派遣を、関東地方においても進められるよう、連携先医療機関との調整に努める。

また、物価及び人件費の高騰により厳しい経営状況が続くことを踏まえ、継続的なクラウドファンディングの実施及び、経営基盤の安定化に向けたサポート会員獲得キャンペーンを継続し、安定的な運営に努める。

人材育成については、良質な補助犬の育成及び協会の持続的な運営において重要な要素であることから、職員がやりがいを持って継続して働ける環境づくりを引き続き進める。これまで取り組んできた、結婚後も働き続けられる職場環境の整備や、仕事と介護の両立支援についても継続して取り組む。

補助犬認定事業では、国家公安委員会及び厚生労働省の指定法人として、海外を含む他団体で育成された補助犬の認定を行うとともに、既に認定した補助犬の状況把握と指導に尽力する。育成事業においては、代替犬を中心とした貸与事業を実施する。

---

## 1 補助犬育成・貸与・認定事業

### (1) 補助犬（及びその候補犬）の育成、認定及び貸与

身体障害者補助犬（以下「補助犬」という。）の育成、認定及び貸与を実施する。

#### 【育成・認定】

当協会育成・認定 4頭（盲導犬1頭、介助犬1頭、聴導犬2頭）

他団体認定 2頭

計 6頭

---

### (2) 補助犬貸与者に対する相談及び情報提供

補助犬貸与者並びに貸与希望者からの飼育方法、使用方法、その他受入れ等に関する相談について、電話、メール、訪問等によりフォローを行うとともに、必要な情報提供を行う。また、ユーザー及び補助犬希望者を対象として、オンライン講義を開催する。

- ・定期報告書・健康診断書 年1回(4月)
  - ・ユーザー研修会 年1回(11月)
  - ・電話・メール相談 随時
  - ・訪問フォローアップ 随時
  - ・オンライン講義 随時
- 

### (3) 補助犬候補犬の導入並びに繁殖

補助犬候補犬及び繁殖犬を導入し、育成・訓練並びに繁殖を行う。

#### 【導入頭数】

- ・候補犬 4頭
- ・繁殖犬 1頭
- ・繁殖回数1回

候補犬のうち盲導犬、介助犬及び繁殖犬、並びに冷凍精子については、これまでどおり海外の盲導犬協会から輸入する。聴導犬については、動物愛護センター等と協力して確保する。

---

### (4) パピーの育成

パピーファミリーに対するしつけ教室の開催、家庭訪問及び相談業務を行い、候補犬の稟性の向上に努める。

- ・しつけ教室 月1回
  - ・家庭訪問 各ファミリー1回以上
  - ・電話・メール相談 随時
- 

### (5) 引退犬の生活支援

引退犬ファミリーに対して健康管理、老犬介護相談及び情報提供を行い、引退犬が安心して老後を送ることができる環境づくりに取り組む。

- ・健康診断 年1回
  - ・電話・メール相談 随時
  - ・訪問相談 随時
  - ・医療費・介護用品支援
- 

### (6) 訓練士の養成

補助犬訓練士を養成するため、研修生を受け入れる。

#### 【研修内容】

- ・募集方法 ホームページ等で希望者を募集
- ・研修項目 障がい等に関する知識、関係法規に関する知識、犬に関する知識、補助犬に関する知識など

- ・研修方法 訓練技術を各種セミナーや他協会との人材交流、外部講師による講義、日常業務のOJTによって習得させる
  - ・海外研修 成績優秀者は海外の補助犬育成・ファシリテイドッグ育成団体へ派遣する。
- 

#### (7) 補助犬に関する調査・研究

補助犬の育成、認定、繁殖等に関する調査研究及び情報収集を行う。

---

### 2 自立支援事業

#### (1) 医療ファシリテイドッグ

関西及び関東の医療機関で実施する。

#### (2) 教育ファシリテイドッグ

東京大学教育学部附属中等学校、港区教育委員会指定校などで実施する。

#### (3) 企業ファシリテイドッグ

企業と連携して実施する。

#### (4) 自閉症児プログラム

自閉症児療育セッション及び歩行支援犬の取組を継続する。

---

### 3 普及啓発事業

#### (1) もっと知って補助犬キャンペーン

補助犬の認知度向上を図るため実施する。また、補助犬フォーラムを東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センターと共同開催する。

---

#### (2) 補助犬受入れセミナーおよび心のバリアフリーセミナーの開催

施設関係者向けに開催する。

- ・実施 随時
- 

#### (3) 補助犬ガイド士養成講座

補助犬受入れの専門知識を持つ人材を養成する。

---

#### (4) 会報の発行

会報「にっぽけん通信」を発行する。

---

#### (5) ホームページ・SNS活用

ホームページ、Facebook、Instagramを活用し、情報発信を行う。

---

#### 4 子どもの情操教育活動

小中学校等で補助犬授業を実施する。特に東日本大震災被災地の学校を中心に、他者への思いやりを育む心のバリアフリー教育を実施する。

---

#### 5 補助犬介在活動の拡充

補助犬の稟性を活かし、人と犬との関係性について研究する。

---

#### 6 その他

##### (1) IT ネットワーク活用

会員・支援者へ情報発信し、支援拡大を図る。

---

##### (2) 人材育成

職員の資質向上のため研修を実施する。

- ・同行援護従事者養成講座、愛玩動物飼養管理士資格取得、手話講座、他 OJT
- 

##### (3) 災害時対応

横浜市災害時動物救援連絡会の委員として、発災時の連絡体制や動物救援本部の設置について定める「横浜市災害時動物救援本部」運営マニュアルに基づき行動する。

---

##### (4) チャリティー商品の販売

補助犬チャリティー商品の制作販売を行う。

---

##### (5) 他団体との連携

- ・「人と動物との共生推進よこはま協議会」委員として、横浜市および横浜市獣医師会と連携し「横浜市動物愛護センター管理業務計画」に基づいた活動に取り組む。
  - ・全国補助犬ユーザー連合会と連携し、シンポジウム等を実施する。
  - ・日本盲人社会福祉施設協議会の会員として活動する。
  - ・国際盲導犬連盟（IGDF）および国際補助犬連盟（ADI）加盟団として、国際交流する。
  - ・東京大学バリアフリー教育開発研究センターと社会連携講座を設置し「障害の社会モデル」実装に関する調査研究に取り組む。
  - ・横浜市立大学創造イノベーションセンターと「医療ファシリティドッグ」に関する共同研究を行う。
  - ・横浜国立大学において、セミスター授業を行う。
  - ・港区教育委員会（東京都）と協働で「教育ファシリティドッグ」派遣事業を行う。
  - ・国際研究プロジェクト「Project ACCESS」を、国内外の関係機関と連携して推進する。
-

(6) クラウドファンディング

定期的に実施し財政基盤の安定を図る。